

月暈都市

島田 楓

私は月が大好きだ。しかし最近では街灯の
光に欠きせされつつある。もつと近くで、
と大きな月をずっと見たい。そ
んなことを考えていたら、ある人に「じゃあ
月に住んでしまえばいいじゃない」その言葉
を聞いた瞬間から私の月面都市計画が始ま
た。

月面都市について色々研究した結果、私が

都市を作るとしたら「月暈都市」を作りたい
と思います。月暈都市これは月暈という自然現
象から名付けました。都市を月面に作るので
はなく月の周りに土星の輪のように作る都市
です。

そうしたいと思っただけにはいくつかのき

かけがあります。皆さんは南極大陸の領土問

題、観測基地の閉鎖・放棄について知ってい

ますか？今回私は、南極大陸と月を重ねて考

えてみることにしました。

まず、領土問題についてだ。月面に都市を
作るとしたら、領土問題を避けては通れない
だろう。昔も南極大陸の領土問題が発生、国
と国とで言い争いになり戦争寸前にまでなっ
たそうだった。このようなことを防ぐためにも月
暈都市を作り、ISSのように国々で分割す
ること、領土問題を解決すること、ができてくると
考えた。

次に、観測基地の閉鎖。放棄について、の問
題である。南極大陸に今存在している観測基

地の20%が閉鎖。放棄されているそうだった。月
面都市を作ること、同じようなことが起こ
るかもしれない。また月面に施設を作ること
で月面環境を壊してしまいかもしれない。そ
れを避けるためにも月暈型にする、ことで月の
環境を壊さず、月を近距離で眺めながら良
い生活ができるだろう。
しかし、月暈型都市を作るにはいくつかの
問題点がある。一つ目は、大量の資材調達で
ある。宇宙空間に対応できるまた、月の円周

よりも大きなものを作るにはひとつの国での
完成は不可能だろう。二つ目は膨大な資金
にっいてた。さっき言っただように資材を
のにもそうとうなお金が必要だろう。それだ
けでなく宇宙に行ける建築士を育てる教育費
や材料を運ぶロケットにもとてつもないほど
の資金が必要だと考える。
きつとこれを作るのは不可能ミではない！
例えば、昔はアニメの世界だけと思われ
いた宇宙エレベーターは素材や技術の進
歩で実際に実現化に向かって活動されてい
私が考える「月暈都市」も協力してくれ
が集まれば実現可能だと考える。材料の輸
送問題の解決方のひとつとして、宇宙ゴミ
利用の研究も有効と考える。材料を運ぶ宇宙
船や今まで人間が出してしまっただロケッ
分離した部分を集め加工するのもいいので
と考えた。
月は誰のものだろうか？月は誰のものでも
無い！

月で新しい資源を深したり研究すること
は悪いことではないだろう。月への観光旅行も
ロマンがあって楽しみである。しかし、月に
降りることでは月の環境を壊すのではなく、守
ることも大切だと考えた。
私なら月暈都市で月を眺めながら生活して
いきたい。